

びっくりにっこりコンサート in 北九州

NPO 公益活動支援事業(補助金)

- 団体名:NPO 法人 フュージョン・フォア
- 事業年度:令和3年度



八幡西区ひびしんホールにて びっくりにっこりコンサート 最終章

団体の概要

令和元年に北九州市で設立された。主に音楽活動を中心に、知的障がい者等、社会的弱者が世の中と関わり、社会一般に、これら弱者も社会の一員であることを広く認識させると同時に、健常者と協力して音楽活動が続けることで、一味違う音楽の提供を続け、音だけではなく、その存在で、障がい者が新たな音楽の創造に貢献できることを社会一般に周知させたいと、活動を続けている。

事業の目的と概要

本事業の目的は、知的障がい者の社会参加の促進と健常者の理解を深めることである。具体的には、多くの北九州市民に知的障がい者と健常者が同じ舞台上に立ち、同じ曲を演奏する際、健常の音楽家が知的障がい者の奏でる音楽に合わせる形で健常者だけで演奏される曲と少し趣の異なる音楽が提供できることを示した。その結果、参加いただいた市民の皆さんには、ある種驚きを与えることができた。すなわち、健常者と障がい者の共同作業により、これまでにない音楽を創ることができた、と考える。

事業費とその主な内容

事業費 678,713 円 (うち補助金額 228,000円)

事業費は、まず観衆から入場料をいただき、これが一つの収入源であった。また、協賛企業様からの支援金があった。さらに、今回、北九州市に採択いただいた、NPO 公益活動支援事業からの補助金が大きな支えとなった。

事業の成果

事業成果としては、いくつか挙げられる。まず、新型コロナウイルス感染症が流行する中、北九州市の5会場で知的障がい者と健常者が奏でるコンサートを開いたが、会場側の協力と参加した観客の皆さまの協力もあり、感染者を出すことなく、事業を最後までやり切れたことが大きな成果と考える。次に、健常の音楽家の皆さんのフォローと知

的障がい者の皆さんの熱心な練習により、どの会場でも、この事業名の通り、聴衆の皆さんは、まず、「びっくり」して、それから「にっこり」されていた。また、コンサートを聴かれた、小倉のホテルのオーナー様からは月に一度のコンサート出演のオファーをいただき、また、音楽家の方からは、ご自分のコンサートへの参加要請もいただいた。



八幡西区教念寺にて



門司区赤煉瓦ホールにて



若松区旧古河鉱業若松ビルホールにて

事業をふりかえって(工夫した点や苦勞した点、今後の展開など)

今年の事業は、新型コロナウイルス感染症を如何に防止するかで、大きな努力がありました。特に、出演者から絶対感染者を出してはいけないので、日常の生活について、特に緊張を強いられました。その努力が結果的に報われて、出演者からも観客の皆さまからも感染者は出ませんでした。観客の制限を設けましたので、事業的には、北九州市からのご支援をいただきましたが、持ち出しは生じました。原因は前述の観客数制限と999円という廉価な入場料設定であったと思います。今回、ご参加いただきました観客の皆さまには知的障がい者が参加した音楽会の魅力は十分に伝わったと思いますので、今回の経験をまた次につなげたいと思います。

池本邸(茅葺民家)の保存と活用提言事業

NPO 公益活動支援事業(補助金)

■ 団体名:

NPO 法人 北九州建物遺産トラスト

■ 事業年度:令和3年度



団体の概要

私たちの NPO 法人北九州建物遺産トラストはまだ北九州市内に数多く残る貴重な建築物について、既に文化財指定を受けている建物については次世代にどのように継承していくのかを考え、まだその存在と価値を知られていないものについてはその社会資産としての意味を多くの市民に分かり易く知ってもらいその活用方法を共に考えることを目標に3年前より活動を起こし、2020年10月に設立した NPO 法人です。実質的には初年度となる令和3年は3つの目標を立てそれを事業化し、将来につながる活動を始めたところです。その中の一つとして紹介するのがここで掲げた八幡東区猪倉に残る茅葺民家の保存と活用提言事業です。

事業の目的と概要

北九州市では既にほとんど消滅してしまった茅葺民家が八幡東区猪倉に存在し、未だに現役の住宅として存在していることを知り、その調査を行う中で茅葺民家が継承してきたその作り方、維持の方法、その屋根の素材の供給方法などを知ると現在、世界で提唱されている SDGs の持続可能な社会に向けての取り組みに非常に強い示唆を与えてくれることを知りました。そこで、これらをより広く知ってもらい現在残っている旧池本家を地域の共有財産として活用し、その事でまたそれを含む地区が新たな活力を得るきっかけとなるような事業を計画しました。具体的にはまず、その民家の歴史を知り、茅という素材がどのように住まいづくりに活かされ、それをどのように地域で支えてきたかを、知る作業から始めました。

- 1 茅とはどのような素材でそれはどのように供給され、なぜ使われなくなったのか
- 2 具体的に茅葺屋根はどのような現状で、その素材としての魅力は何か
- 3 この民家がこの地域でどのような価値を持つのか

などを視野に入れて実際に茅葺職人を招聘し、事例の紹介その施工法などを含む講演会と、茅を使って実際にモノを作るワークショップを開催し、特に地域の方々により茅に親んでもらうことからはじめ、この住宅を地域活動の新たなシンボルとして考える下地造りを今年度の目的としました。

事業費とその主な内容

事業費 670,298 円（うち補助金額 318,000 円）

賃金（調査補助）、報償費（講師報酬）、旅費交通費（JR、タクシー等）、委託費（撮影費他）、備品費、消耗品費、印刷費、役務費

事業の成果

事業を行う中で、今後につながる成果を得ることができ、その事が又自分たちの活動の励みにもなり、地域や市民の方々から大切な建物を知っていただく事の重要性を再認識することができました。以下にその具体的な点を掲げてみます。

■ 茅葺民家の調査について

調査をする中で、北九州に茅葺きの民家がほとんど実在しないことがわかりこれを維持し、その継承をすることが大きな意味を持つことがわかりました。この調査の結果を更に深化させ、国の登録有形文化財として指定を目指すと共に、それを活用して地域活動の核となる仕組みづくりを並行して行うことが大切であることを知りました。

■ この建物と地域の関係

ワークショップを開催することで、より具体的にこの建物と接して頂き、これを維持し活用することが如何に大切であるかを専門家だけでなく、より多くの多様な世代の人に知ってもらうことが最も重要であることを知りました。又より具体的なイベントで地域の方々同志もより親密になる事ができることがわかりました。その事がこのような保存の未来を決めることである事を活動の基本に置くことが大切であると再認識しました。



事業をふりかえって(工夫した点や苦勞した点、今後の展開など)

- コロナ禍でもあり、人数制限をした中での活動で十分な準備ができなかったため、せっかくの貴重な話と体験が多くの人に知ってもらうことができませんでした。広報が充分であれば更に多くの成果が期待できることを確信しましたので今後の活動にこの経験を活かしたいと思います。
- 現地の NPO 法人との協力関係を積極的に活かし、今後もより親密な関係を築き、より広範な活動を目指したいと思います。